

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区上馬 5 - 2 9 - 1 3
園名	上馬保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

触れて・試して・まだ遊びたい 木のおもちゃと自分、そして友だちとのかかわり

<テーマの設定理由>

普段何気なく触れて手にして積み重ねたり並べるなど、様々な形に構成できる木のおもちゃ。種類が豊富になることでイメージが広がり、やってみたいことが湧いてくるような、意欲的かつ創造的な姿をさらに引き出したい。

2. 活動スケジュール

4～5月 自分のクラスでじっくり遊んでみよう。

環境を整える パーテーション・継続できる場の確保・種類、数をそろえる、おもちゃの精査

6月 ホールで遊んでみよう（異年齢のかかわり）

スペースや時間を気にせずじっくり遊んでみる

3歳児クラスから5歳児クラスまで順次ホールへ行き好きな遊びを気の合う仲間と関わりながら遊ぶ。

7月以降

年度内に2, 3回ホールで遊ぶ経験を重ねながら、年齢ごとの保育室でも日々繰り返し触れていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

一人ひとりの世界で集中できるよう、パーテーションを用意し、他の遊びと区別できるスペースを設けた。整理棚を用意し、素材ごとに選びやすくした。ごっこ遊びに広がりそうな木の板、木の人形なども種類別に収納した。素材は数種の本材、アクリル様積み木等々、様々な物を準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

じっくりと積み木に触れる ～一人で、またはともだちと一緒に～

<選ぶ・崩れてしまうこともある・もう一度やってみる>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- 様々な種類の木の素材がある中で、「今日はこれ!」と選び出して遊び始めている。
- 平たい板の上に細かいパーツを並べようとしたり、立体的な形ができてきたり、友だちをまねてみるなど発想が広がっている。その中で、形がだんだん複雑になると、手が触れて壊れてしまったり思った通りにいかなくなったりすることが何度も起こった。木のおもちゃならではの出来事である。保育士は、そんな姿を「あ〜崩れちゃったね」と見守りながらもそのあとどうするかを目の端で追っていた。すると、「もう一回!」とすぐさまやり直していた。手があたらないように違う方向から置いてみよう工夫がみられた。「やった、きれいにならんだ!」と満面の笑顔には達成感がにじんでいた。
- 友だちと一緒に遊ぶことで自分では思いつかないものを目にして「やってみたい」という気持ちが芽生えている。途中でできなくて躓いたりすることがあっても、隣でみている友だちが、「手伝ってあげようか?」と気づいてくれるやさしさに触れながら、安心して作り上げる経験となっている。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

◎気づき

- 素材が豊富にあることで、じっくり選ぶ楽しさを味わえる。
- 異年齢のかかわりが自然と持てる。
- 隣で遊ぶ友だちの姿から模倣遊び、再現遊びが盛んになる。
- クラス単位のみならず、夕方の遅番時に連携を取りながら遊びたい素材に触れることができる。
- ホールなど広い場所で遊んでも十分な数と種類があって楽しめる。
- 各クラスに、積み木を取り置き、継続して遊ぶ空間を作ったことで「まだ遊べる、もう一度できる」という安心感が持てたり、じっくり取り組む心が育まれている。

◎今後に向けて

- クラスにある固定棚に積み木を収納しており、そこから選ぶ設定になっている。遊びの幅を広げていけるよう可動式の棚を用意し、クラスの枠を越え、さらに取り組みやすくしていきたい。